



あさひまち



新潟大学旭町学術資料展示館ニュースレター 2017年11月 第15号



いまむかし スタンプラリー今昔



新潟大学旭町学術資料展示館長 橋本 博文

以前、地域の連携を図ろうと新潟街中の博物館・美術館に声を掛けてスタンプラリーを行ったことがある。当時、スタンプの無かった館園もあって、そのデザインについても僭越ながら御提案したことを懐かしく想い出す。

ところで、このようなスタンプラリーという行為はいつごろから始まったのであろうか。世界の事情に疎いので、国内の歴史的スタンプラリーについて紹介したい。

①御朱印帳一神社・仏閣巡りー

「西国観音巡礼」というのが8世紀初めに遡ると言われている。そもそも御朱印帳は寺に納経したことを証明するもので、今のようなスタンプラリーとは性質を異にするものだったようである。それが「巡礼」という行為につながり、その功德にあやかろうという宗教的なものであった。

②陵印一天皇陵巡り（巡陵）ー

そのような中、明治時代に入って「陵印」というのが現れた。陵印とは陵墓の印で、天皇陵の印ということになる。現在の宮内庁、古くは宮内省の管轄の天皇陵において管理事務所に「陵印」が置かれていた。現在は陵印の管理を「管区」に委ねている。この陵印集めのために陵墓巡り、「巡陵」が行われた。これは「万世一系」の明治天皇制を支える精神的支柱ともなった。陵印は折本型式のものや、カード型式のもの、あるいは特製の布に押印するものが確認できる。このうち、カード型式のものには各々の天皇陵の写真と解説が付されている。一方、特製の布の場合は、朱肉がのり易いように絹布を使用しており、上部に対向する鳳凰が印刷されている。その下には初代の神武天皇と明治天皇の陵印を並列して押すスペースが用意されているものがある。そして2代以降の陵印を左から右、上から下に向かって押す仕組みになっている。それはガイドとなる印刷された紙が絹布とセットで重ねられ、仮表具となって巻かれている。巡陵者はそれを持参し、下のガイド紙の印刷にそって定位置に押印する。これと似たような原理の印刷された掛け軸が存在する。歴代の天皇の肖像画や天皇陵の印刷されたものが認められる。それらのうちに

は神武天皇…明治天皇—大正天皇—昭和天皇（皇太子）へという万世一系の皇位継承の正当性を写真で訴えたものも存在する。このようなものは戦前・戦中の天皇制護持に一役買い、巡陵は戦勝祈願にも利用された。

③中国大陸侵略スタンプ帖

当展示館に寄贈されたものの中に、仮称「中国大陸侵略スタンプ帖」がある。これは当館市民ボランティア組織、あさひまち展示館友の会の2代目会長であった小林武氏が義父に当たる方から譲り受けたものという。それは折本になっており、最初の見返しに後押しか、昭和14年の「支那事変第二週（ママ）年記念」とあり、12年7月7日の盧溝橋から始まっている。日本軍が陥落させた中国の都市名と占領の年月日、そして戦争の象徴的イラストがセットでスタンプになっている。これは戦中、戦地ではなく、内地で郵便局にスタンプ台が置かれ、陥落記念に押されたらしい。この年月日の古い順に番号を付け、中国大陸の地図に番号を落としていくと、必ずしも東海岸から順序良く並ぶとは限らないことが判明した。すなわち、戦略的意図や激戦・抵抗の様子が垣間見られるのである。当時の日本人がどのような感覚でこのスタンプ帖を完成させていたか空恐ろしいものを感じる。

日本のはんこ・印鑑文化には固有のものがあるとされるが、これはいただけない。それを負の遺産として後世に引き継ぎ、平和教育に活用したいものである。先日、本学の副専攻科目、平和学の授業の一環で、これを当館に展示し、聴講した留学生にも見学してもらった。中国からのある留学生は、自分の郷里の名前があったのが悲しかったとその見学記に記した。



「新潟大学教育学部附属特別支援学校生徒作品展」

旭町学術資料展示館 清水 美和

平成28年10月1日(土)~同月30日(日)の期間、新潟大学教育学部附属特別支援学校の中学部・高等部に通う生徒さん達が制作する作品を展示する企画展を開催しました。

展示に先立ち、7月6日(休)には、引率の指導教員のかたと共に生徒さん達2人が社会奉仕活動の一つとして、当館館内を清掃してくださいました。来館者のか

たに気持ち良く展示を見ていただけるようにと、展示ケースを磨いたり、エントランスや階段、廊下に僅かなゴミも埃もないよう清掃している熱心な姿に感心しました。作業にあたった生徒さんにとっても、やがて自分達の作品を展示する会場を目にして、実際にこの場所で展示するのだということを実感する機会になったと思います。

教育学部附属特別支援学校に通う生徒さんたちは普段、通常の時間割で授業を受けたあと、放課後に「アフタースクール」としてそれぞれが選んだ活動をして

いるとのことで、このたびの企画展では美術作品制作を選択している30人の生徒さん達が「アフタースクール」の活動のなかで制作した時計を展示しました。

時計のムーブメントと時計針については市販されているものを利用し、各自好みの素材を文字盤に加工して時計を制作しました。辞典やアルバムのように、表紙を開くと文字盤が現れ、普段は閉じて置いてもよ

新潟大学旭町学術資料展示館企画展

新潟大学教育学部附属特別支援学校生徒作品展

2016年 10月1日(土)
~ 10月30日(日)
会場 新潟大学旭町学術資料展示館

新潟大学教育学部附属特別支援学校の生徒さんが制作した作品を展示します。また、22日・23日の両日に開催する「キャンドルナイトin旭町」では、展示館エントランスを彩る灯ろうは本教育学部附属特別支援学校の生徒さんたちが描いたものを中心に、キャンドルは市内福祉施設と特別支援学校で制作されたものになります。

【関連イベント】

- 10月22日(土)・23日(日)
16:30~20:00 (特別夜間開催します)
キャンドルナイトin旭町
- 10月22日(土) 17:00~17:30
フルートデュオ演奏会
演奏：中村佳代さん(武蔵野音楽大学)
高山空理志さん(東京音楽大学卒)
片カメレン、愛の奥野(ほか)
主催：新潟大学あさひまち展示館友の会
- 一その他の催しー
石けん粘土で
火焰型土器を作ろう!
10月30日(日)
13:00~15:30
先着10人 要申込み
※申込みは新潟大学旭町学術資料展示館まで

【協力】 新潟大学教育学部附属特別支援学校、新潟大学あさひまち展示館友の会、NPO法人新潟エキナカン会

新潟大学旭町学術資料展示館
新潟市中央区旭町通2-746 TEL:025-227-2260 開館時間 10:00~16:30 月・火休館



いものや、美しいイラストが描かれている缶の蓋を文字盤として利用しているものなど、見ていて楽しくなるようなもの、かわいらしい装飾を施したもの、というように制作したひとりひとりの個性が溢れる、市販品にはない魅力ある時計が並びました。

作品を見学した方からは、「発想に感心しました」「自分も作ってみたいくなりました」「みなさんが作った時計がひびきあう空間にいやされました」といった感想をいただき、好評を博しました。



と関連イベント「キャンドルナイト in 旭町」



本企画展の会期中には関連イベントであり、なおかつ西大畑旭町かいわいの5つの展示施設が連携しておこなう「新潟竹あかり 花あかり」イベントへの本館参加企画として「キャンドルナイト in 旭町」を10月22日(土)・23日(日)に開催しました。両日とも20時まで夜間開館をして灯籠とその灯りを楽しんでいただき、22日17時から17時30分には中村佳代さん・西山安里さんによるフルーツデュオ演奏会を開きました。

このキャンドルイベントは、展示館の周囲に200個の紙灯籠を置き、蠟燭の明かりを灯して展示館をライトアップしようというものです。これに使用する灯籠は1つの面が約20cm×30cmほどからなる4面に囲まれた内側に蠟燭を入れるかたちになっていて、その1つ1つの面にデザインを施しました。200個もの灯籠のデザインにご協力くださったのは、教育学部附属特別支援学校の生徒さんご家族や保護者の皆さん、教育学部(院生)、新潟大学あゆみ保育園園児のご家族のみなさん、そして当館のボランティア友の会会員のみなさんです。加えて、橋本館長に至っては自身もちろんご家族、お孫さんにまでも灯籠のデザインをしてもらったとのことで、図書館職員も参加してこの膨大な量の灯籠をデザインし組み立て完成させることができました。

灯籠を灯すキャンドルは、教育学部附属特別支援学校の生徒さんたちが製作したキャンドルと、NPO法人「新潟エキナン会」のご協力の元、新潟市障がい者就業支援センターこあサポートにて製作したキャンドルを各日100個ずつ使用しました。

灯籠の設営については、ボランティア友の会の橋本浩一さんが中心となって安全に配慮した配置を計画し、友の会会員のみなさんや、NPO法人「新潟エキナン会」の有志の方々、教育学部芸術環境創造課程4年生の佐々木恵理さんが加わり作業をおこないました。

キャンドルイベント当日には「新潟学の会」の斎藤栄路さんのご厚意により、鯛車を19台お貸しいただき、灯籠の中で愛らしい強力なアクセントになっていました。

10月下旬という時期の開催で天候も心配されましたが、2日目に時折強い風が吹いた程度で幸い天気にも恵まれ、2日間でのべ300人近い方にお越しいただきました。次第に暮れていく空の下、灯された灯りと灯籠が視界にはっきりと浮びあがり、言葉を発するのも忘れてしまいそうになるほど静かで、日中の通常開館時とはまるで異なる空間のような、ライトアップされた当館での催しを楽しんでいただきました。

本企画展では、学内でありながら初めて教育学部附属特別支援学校に通う生徒さん達の作品を展示することになりました。これを端緒として今後も展示や催しなどを通じて、連携を継続していきたいと考えています。



人文学部 橋本 博文

人文学部考古学研究室を中心とする牡丹山諏訪神社古墳発掘調査団では、第2次発掘調査の成果を『みんなで調べた牡丹山諏訪神社古墳』展として、2017年5月11日～7月3日まで旭町学術資料展示館を会場に開催しました。第1企画展示室の壁面には、調査に様々な立場で関わった方々の調査に寄せる思いを一文にしたためてもらい展示させていただきました。中には調査に参加した牡丹山小学校4年生の感想文もありました。同室中央には模造品の土製勾玉を埋めた砂箱を置き、発掘の疑似体験ができるようにしました。その周囲には発掘・測量・撮影器材を配置して発掘現場を体感してもらいました。第2企画展示室には出土遺物やボーリングコアなどを展示しました。終了後には、同名の冊子



を記録集として刊行しました。

さらに、第3次発掘調査速報展を、第1期として2016年10月1日～13日まで、第2期として同14日～30日まで、それぞれ駅南キャンパスときめいと及び当展示館で開催しました。これは、新潟市の「水と土の文化創造都市市民プロジェクト」に応募・採択されたもので、期間中、ときめいとでギャラリートークや勾玉づくり体験教室を実施しました。前者では考古学ファン、後者では親子連れが参加しました。展示には、第3次調査で出土したばかりの遺物の他、9月25日(日)に現地、牡丹山諏訪神社古墳で催した”古代祭り”使用の石棺模造品や棺材運搬用の木ぞりである修羅の復原品、榊の枝に石製模造品の模型をぶら下げたものなどを使用しました。なお、それに先駆けて同調査団では、牡丹山諏訪神社古墳の体験発掘や同古墳の模型製作を行いました。模型の完成品は現在、ときめいとで展示しています。



新潟県糸魚川市の青海海岸で見られる少し異様な光景をご存知でしょうか？



この海岸では、石ころを手にとりじっくり観察している人影がよく見られるのです。実はこの海岸は別名「ヒスイ海岸」と呼ばれていて、装飾品として有名な「ヒスイ」が(稀に)落ちています。実際にこの海岸を少し歩いてみると、赤っぽい石やシマシマ模様の石など色々な種類の石ころが落ちていて気づくと思います。

私たちは、2016年7月13日～8月27日の期間、新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」にて「ジオパークの石ころ展」を開催しました。会場には、新潟県内のジオパークである、糸魚川、佐渡、苗場山麓ジオパークから持ってきた“石ころ”を展示しました。なんともマニアックな企画を…と思われるかもしれませんが、多くの方が石ころの世界に引き込まれている様子は、まさにヒスイ海岸で見た光景でした。これには仕掛けがあって、岩石標本の薄片(スライドガラスに貼り付

大学院自然科学研究科 博士後期課程1年 香取 拓馬

け薄く研磨した標本)写真を、大きなパネルに印刷して展示しました。実際に覗いたことがある方はご存知かと思いますが、岩石薄片の偏光顕微鏡像はとても美しいのです！この美しい写真をまるで美術館のように展示することで、多くの方は最初石ころの写真だと気づけなかったと思います。そこでふと手元に置いてある石ころたち。石ころの意外な姿に関心を持ってもらおうというわけです。

もちろん石ころの多様性は、岩石のでき方に起因しているのですが、こんな疑問を持つ方がいらっしゃるかもしれません。「マグマからできた岩石、海の底でできた岩石、地下深くで変成した岩石が、どうして同じ海岸に落ちているのか？」この素朴かつ難解な疑問は、地球の成り立ちや自然現象の理解に大きく貢献してきました。普段何気なく通り過ぎていた石ころ(歴史の証言者)を手にとって、身近なサイエンスを体感してみたいはかがでしょうか？



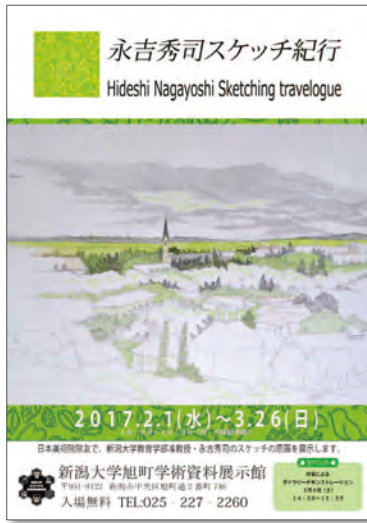
企画展示 exhibition

開催期間：2017年2月1日(水)～2017年3月26日(日)

永吉秀司 スケッチ紀行

日本美術院院友で、本学教育学部准教授である永吉秀司氏によるスケッチ原画展。ヨーロッパの取材旅行をした折のスケッチ画を展示した展覧会で、同氏がモチーフと対峙する姿勢や風景の捉え方など、作品では見ることのできない表現の原石を垣間見る機会となりました。

会期中には、同氏によるスケッチのデモンストレーションも実施され、一本一本の線を大切にしながら筆を運んでゆく姿に来場者から感嘆の声が上がるのが印象的でした。

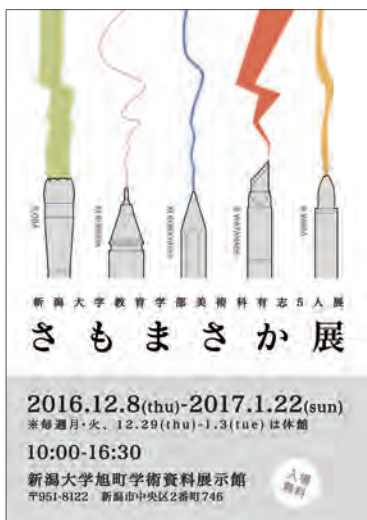


企画展示 exhibition

開催期間：2016年12月8日(木)～2017年1月22日(日)

さもまさか展

教育学部 永吉 秀司

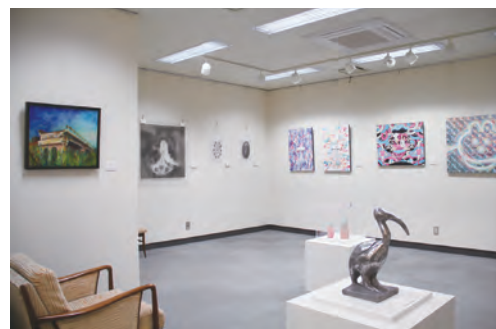


学生にも活躍の場を広げようという主旨で開催された教育学部芸術環境創造課程造形表現コース4年に在籍する学生作品による作品展。

「ときめいと」で開催された学生の自主企画による展覧会を、あさひ町学術資料館バージョンとして再構成した企画展で、それぞれの名前の頭文字をとって「さもまさか」と名付けられています。

卒業研究のために実験的に表現された作品が多く、瑞々しい感性がそのまま表出されているところは学生ならではのものがあり、実に清々しい気持ちにさせてくれる展覧会でした。

卒業研究のために実験的に表現された作品が多く、瑞々しい感性がそのまま表出されているところは学生ならではのものがあり、実に清々しい気持ちにさせてくれる展覧会でした。



2016年7月13日から9月25日まで、企画展「新潟大学から考える戦争の記憶—新潟大学に残る資・史料に即して—」が開催されました。



現在、五泉市石曾根に所在する新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター村松ステーション（以下、村松STと表記）の敷地は、日清戦争後の1897（明治30）年に中蒲原郡村松町に陸軍部隊が移駐して以来、1945（昭和20）年まで陸軍の練兵場として使用されていました。この練兵場とそれに隣接して所在した兵営建物は、敗戦後には陸軍の手を離れ、1946（昭和21）年には建物の一部と練兵場敷地が新潟県立農林専門学校（以下、新潟農専と表記）に引き継がれて、練兵場敷地は農場として開拓されました。そして1949（昭和24）年に新潟農専を母体に新潟大学農学部が設置されると、これらの施設は新潟大学に引き継がれ、

このうち旧練兵場＝農場部分が村松ST敷地として現在に至っています。

企画展では、以上のような歴史をふまえ、村松STに残る「陸軍用地」と記された石造の標柱や、旧兵営建物を新潟大学農学部が利用していた際の利用図面などの歴史資料のほか、陸軍時代の兵営の写真や、新潟農専の一期生、二期生がお持ちの新潟農専時代の旧兵営建物での学生生活の写真などをお借りし展示しました。準備に際しては、農学部の教職員の皆様、特に村松STの職員の方々に多大なご協力を頂いたほか、村松ST近隣にお住いの資料所蔵者の方々に大変お世話になりました。また展示に際しては、館長の橋本博文先生をはじめ旭町学術資料展示館の関係者の方にも諸々ご高配を頂きました。改めて皆様に心より御礼申し上げます。



新潟大学あさひまち展示館友の会 バス見学会に参加して

開催日：2016年10月10日(月)

旭町学術資料展示館友の会 河野 良枝

平成28年度のバス見学会は、気候の良い10月に橋本博文館長の引率により総勢20名の参加で開催されました。県内の遺跡や資料館を巡る盛り沢山の企画です。最初に訪れた新大農学部村松ステーションは、県農業専門学校跡地で、黒い土が美しい約15haの黒ボク土壌の農園です。学生たちの農業経営、教育、研究の場として牧草や大豆、各種野菜等を栽培しているところで、各々に短い時間を楽しみました。縄文時代から食用とされていた栗の実を拾い、丸いはずのクローバーの葉が三角形だと驚きの声をあげ、皆、幼少時代にタイムスリップをしたかのように目をキラキラさせていました。次に訪れた村松陸軍少年通信兵学校跡地は、戦争拡大による少年飛行兵募集試験合格者を通信部隊として養成のため入学させていました。別棟の五泉市村松郷土資料館には、展示館と同じような水上輪がありました。鉾山に利用したのは佐渡だけで、他は田の水の吸い上げに使っていたということです。生まれ育った西蒲区にある潟東歴史民俗資料館では、生家の近くの遺跡の存在を知って驚き、再度来館しようと思いました。

午後からは燕方面に向かいました。新羅王碑は集落の裏山にあり、漂着した新羅王一族の祖先で地元



良寛の里美術館（長岡市）にて

民が手厚く墓守をしています。燕市には大河津可動堰改築工事に伴い発見された五千石遺跡があります。この遺跡は、県内初の地震による「横ずれ遺構」です。同市の大河津資料館では、かつて3～4年毎の氾濫による洪水の脅威にさらされながらも豊かな川の恵みを享受したことを物語る縄文・古墳時代の出土品があり、祭祀に使用した白玉、勾玉などもみられ、これらは皆、先人達の手で残されたものです。

後日、再び潟東の資料館を訪れ、用意された資料から、生家のある村内の縄文時代と中世の複合遺跡を詳細に知る事ができました。偶然の遺跡との出会いと文化財を学んだことで、十七代も続いた生家を残す夢を叶えたいと強く思いました。

平成28年度あさひまち展示館活動記録

あさひまち展示館企画展示

開催期間	タイトル	展示室	担当
2016.3.24～5.1	花見ー浮世絵・版画を中心にー	企画展示室	人文学部
2016.5.11～7.3	牡丹山諏訪神社古墳発掘調査成果展 ーみんなで調べた牡丹山諏訪神社古墳ー	企画展示室	人文学部
2016.7.13～9.25	新潟大学から考える戦争の記憶 ー新潟大学に残る資・史料に即してー	企画展示室	人文学部
2016.9.7～10.30	地学実験A実習発表展	1F展示室	理学部
2016.10.1～10.30	新潟大学教育学部附属特別支援 学校生徒作品展	企画展示室	展示館
2016.10.14～ 10.30	牡丹山諏訪神社古墳2016年 第3次発掘調査速報展	企画展示室	人文学部
2016.12.8～ 2017.1.22	さもまさか展： 新潟大学教育学部美術科有志5人展	企画展示室	教育学部
2017.1.4～2.26	アンコール新潟砂丘	2Fロビー	展示館
2017.2.1～3.26	永吉秀司スケッチ紀行	企画展示室	教育学部

あさひまち展示館 サテライト・ミュージアム 駅南キャンパス「ときめいと」企画展示

開催期間	タイトル	担当
2016.7.13～8.27	ジオパークの石ころ展	理学部
2016.10.1～10.13	牡丹山諏訪神社古墳 2016年第3次発掘調査 速報展	人文学部

友の会行事

開催日	テーマ	講師
2016.6.4	第14回新潟大学あさひ まち展示館友の会 総会	
2016.10.10	バス見学会 新潟大学農学部附属 フィールド科学教育研究 センター村松ステーション・ 湯東歴史民俗資料館・ 良寛の里美術館など	橋本博文館長
2017.1.29	新潟大学あさひまち展示 館友の会 新年会	

フォーラム・講演会

開催日	タイトル	講師	会場
2016.6.4	第14回新潟大学あさひまち展示館友の会総会 記念講演会「朱鷺の民俗誌ー朱鷺・人・自然ー」	池田哲夫（新潟大学名誉教授）	ときめいと

ギャラリートーク・体験教室

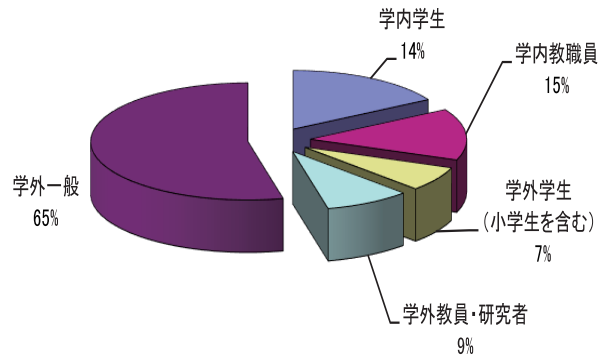
開催日	タイトル	講師	関連企画
2016.7.22	ギャラリートーク	中村元人文学部准教授	新潟大学から考える戦争の記憶 ー新潟大学に残る資・史料に即してー
2016.10.22,23	キャンドルナイト in 旭町		新潟大学教育学部附属特別支援学 校生徒作品展
2016.10.22	フルートデュオ演奏会	中村佳代、西山安里（フルート演奏）	新潟大学教育学部附属特別支援学 校生徒作品展
2016.10.30	石けん粘土で火焰型土器を作ろう		
2017.1.29	盆石で新潟砂丘を描く	高山豊翠（細川流盆石）	アンコール新潟砂丘
2017.3.4	作家によるギャラリートークデモンストレーション	永吉秀司教育学部准教授	永吉秀司スケッチ紀行

あさひまち展示館入館状況

◆入館者数 (2016年4月～2017年3月)

月	学 内		学 外			計
	学生	教職員	学生	教員研究者	一般	
2016年4月	17	30	8	21	205	281
5月	4	25	10	30	127	196
6月	28	24	53	32	225	362
7月	216	43	40	25	131	455
8月	25	24	33	13	132	227
9月	14	44	1	25	144	228
11月	13	40	5	11	72	141
12月	42	55	0	14	95	206
2017年1月	13	27	2	18	100	160
2月	13	32	18	24	130	217
3月	3	49	6	32	126	216
計	388	393	176	245	1,487	2,689

※開館日：水・木・金・土・日曜日の週5日間



◆団体入館者

日付	団体名	人数
2016年4月23日	新潟大学考古学研究部	14
2016年6月17日	新潟青陵高校3年	30
2016年6月24日	新潟市立白新中学校2年生	18
2016年7月22日	新潟青陵高校2年	24
2016年7月22日	新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター村松STご関係者のみなさま	15
2016年10月28日	新潟市立新津第2中学校2年生	22
2017年2月25日	新潟県第8団ガールスカウト	12

◆講義・実習等での活用

日付	講義・実習名	受講者数
2016年7月17日	地学実験A/理学部	20
2016年7月23日	社会地域文化基礎演習/人文学部	23
2016年7月24日	考古学概説A/人文学部	26
2016年12月4日	地理学演習/教育学部	19
通 年	博物館見学実習	50

新潟大学旭町学術資料展示館ニュースレター

あさひまち

第15号

- ◆ISSN 2185-7431
- ◆発行年月日/2017年11月15日
- ◆編集・発行/〒951-8122 新潟市中央区旭町通2番町746
新潟大学学術情報基盤機構旭町学術資料展示館
- ◆印刷/共立印刷株式会社

平成28年度の事業は、大学の過去と現在についてご紹介することになりました。

新潟大学農学部村松STに残る「陸軍用地」碑が語るのは、戦後70年を経て日常に埋没しそうになっている歴史でした。農学部だけでなく各学部の辿ってきた歩みを見直すきっかけになりました。また、教員や学生が制作した作品や研究成果を展示する企画展では、現在の大学の姿の一側面をご覧いただけたと思います。今後も現在・過去・未来を見据えた新潟大学の魅力を発信していきたいと思ひます。

